

「日本の偉大なトイレ」第二支部バージョン

～TOTOのルーツは名古屋にあり～

2017年9月20日（水）実施 JGA 第二支部研修レポート

2017年9月20日（水）、大阪、東京に引き続き、TOTOのルーツである世界最大のセラミックス企業グループ 森村グループのお膝元、名古屋市において「日本の偉大なトイレ」研修、第二部バージョンを開催いたしました。

【TOTOは森村組(創立1876年)・日本陶器合名会社(1904年創立、現(株)ノリタケカンパニーリミテド)をルーツに持つ森村グループの一員である。】

既に他地区で開催済みでしたが、地元のみならず東京からもご参加を頂き、会員5名、非会員3名、委員2名に加え、中部国際空港の空港運用本部よりオブザーバーをお迎えし、合計11名での開催となりました。

日本の衛生と快適さを追求したトイレは、昨今訪日外国人の間で話題沸騰！！日本で体験すべきことの中にもリストアップされ、ガイドとしては外せない、今大注目のアイテムです。

日本の最先端技術が盛り込まれたトイレですが、発展のベースはやはり、「トイレを見ればその家わかる。」という言葉にも表れている、日本人の清浄を尊ぶ心、衛生意識の高さ、細部にこだわる職人の気質といった文化背景に加え、お客様に少しでも快適にお過ごしいただきたいという「おもてなしの心」。トイレひとつから、日本の全てが語れると言っても過言ではないでしょう。

東京、大阪で実施されたものと、基本的には同じ内容の研修ですが、名古屋はTOTOのルーツである日本陶器（現ノリタケカンパニーリミテド）の拠点であることもあり、在東海地区ガイドにとっては、更に日本の製造業の中心地として発展してきた名古屋の歴史と絡めた切り口でも説明もでき、他地区のガイドとは一味違った感想を持ったと思います。東京、大阪と比べ、名古屋市周辺の外国人滞在者が、観光目的ではなく、ビジネス客が多いという状況からも、今回講師を務めてくださいました、TOTO株式会社、グローバル事業推進本部の星野毅様は、東京、大阪での研修とは一味違った感想を持たれたようです。

ビデが誕生したのはフランス、世界初のビデ付便座が開発されたのはアメリカ、それなのに何故日本でここまで発展したのか？全てはそれぞれの文化の違いに理由がありそうです。それぞれの言語のお客様のお国の文化と比較して、日本の文化を紐解いていくのも面白い切り口かもしれなそうですね。皆様のガイドトークの持ちネタが増えれば幸いです。

第二支部 運営委員 丹羽やよい

